令和元年水害下の透析医療

飯山赤十字病院 透析センター長
山谷　秀喜 先生

透析の災害対策は、個々の透析施設、地域ごと、全国的規模で様々に講じられているが十分な体制を整えることは難しく、今なお災害から得る教訓は少なくない。当院では2019年に台風19号の影響で透析不能となったが、その際、見直すべき点が幾つかあったためここに報告する。

2019年10月12日（土曜）、過去最強クラスの台風19号は各地で大規模な河川氾濫や土砂災害をもたらした。当院がある飯山市でも13日（日曜）の明け方に千曲川の支流である皿川が氾濫し、市内へ濁流が押し寄せた。当院は冠水せずに済んだが、市から「下水道の使用ができない、復旧の目途は立っていない」との通達があった。電気・上水道は使用可能で透析設備に問題はなかったが、明日（月曜）からの血液透析が排液不能を理由に行えない可能性がでてきた。そのため、この状況を日本透析医会災害時情報ネットワークへ書き込んだ。次に地区透析基幹病院（長野赤十字病院）へ連絡すべきであったが、透析センター長である私が災害時連絡網を把握していなかったため、当院の血液透析患者71名（入院７名）の受け入れ先を、直接、探し始めた。そうこうしている間に、県透析基幹病院（相澤病院）から連絡があり、受け入れ先を調整していただけることになった。その結果、約２時間で５つの代替施設へ透析患者の振り分けが完了した。患者情報の提供に関しては、代替施設からは当院透析スタッフの派遣要請がなかったため、透析条件票を患者自身が持参するようにした。この時、当院での災害緊急時透析情報カードの運用がいつの間にか立ち消えていることが判明し、改善すべき点として挙げられた。翌14日（月曜）は午前８時の時点で下水道が復旧しておらず、当院での透析を断念し代替施設での透析を正式決定した。患者は段取り通りに代替施設へ向かったが午前10時になって下水道が復旧し、急遽、当院で透析を行うことにした。すでに代替施設へ到着した患者もいたが「慣れたところで透析を受けたい」と当院へ戻ってきた。以上の経緯で、既に転院した２名の入院透析患者以外は当院で透析を行い、翌15日（火曜）から通常透析へ戻った。

災害による透析不能の理由は、断水・透析設備の損害・建物損壊と報告されることが多いが、下水道の使用不可だけで透析不能となることは、あまり語られていない。しかし、この経験を通じて、排液手段の確保も重要な課題であると認識した。また、情報伝達や災害緊急時透析情報カードに関して、当院での対策に問題があったため、猛省するとともに不備を見直した。

山谷（やまや）　秀喜（ひでき） 先生　略歴

【学歴・職歴】

1993 年 3 月　金沢医科大学 卒業
1993 年 5 月　金沢医科大学病院　内科研修医
1995 年 4 月　金沢医科大学腎臓内科　医員
1996 年 4 月　石川県七尾市　恵寿総合病院腎臓内科
1998 年 4 月　石川県金沢市　浅ノ川総合病院腎臓内科
2001 年 4 月　金沢医科大学腎臓内科　助教
2006 年 4 月　金沢医科大学腎臓内科　講師
2016 年 4 月　飯山赤十字病院　透析センター長（現職）